

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

極秘

その日の営業も終わり、皆が清掃作業に入っていた。隅々まで綺麗にし、毎日夜中の2時前まで作業していた。出玉を自慢にする店舗は数多く、はつきり言っているのはありふれた自慢だ。ただの班長の私にはその出玉を左右することはできず、自慢にすることもできない。だから、私たち従業員が挙って自慢にしようとしたもの、それはホールの美しさと快適さだった。営業時間中も暇があれば清掃、常に通路を巡回し、空き缶やゴミのチェック。お客さんが席を立つたら、急ぎ清掃。従業員はホール内で止まることはない。メダル洗浄機など、機械のメンテナンスにも手を抜くことはない。いつもピカピカのメダルが提供される。これは誰でもできるけど、意外にできない立派な自慢である。

その日もその自慢のため、台のチェックを入念に行っていた。その時だった。「止まれ！」ホールに響くような大きな声、それは主任だった。私がキョトンとしていると、「今、俺が何しているかわからんのか？」それは設定を変更している最中だったのだ。私はそれに気付かず、主任のいるその島に入ってしまったのである。正直なんとも思わず入ってしまった。しかし主任のその「鬼の形相」に、「設定」の重要性を身にしみて痛感し、それと同時に理解できた。あいつは見るつもりなどない、きつと主任はそんなことは分かっていたと思う、しかしそういう問題ではないのだ。もっと根本的なところ

が問題なのである。それ以降、主任が設定を打ち出すと、他の従業員をその場から離し、他の作業をさせることを徹底した。

別れ

ある良く晴れた真夏の猛暑、私は遅番だったので、涼みついでに興味のスロットをしていた。ふと時間を見ようと、ポケットの携帯を確認する。するとそこには店からの着信が数件あり、留守電が録音されていた。その内容を確認すると、「Mがまだ来ていない、急いで店に来てくれ」という店長からの伝言だった。

店に到着するやいなや、ホールに飛び出す。そこはいつもの店ではなく、自慢できるところなどない、とても汚いホールだった。Mさんが休みなのに加え、今日に限って従業員も少ない。お客さんの対応で精一杯で掃除の暇がなかったのだ。ホールに出た私の姿を見た彼らの表情は、安堵の表情で満ち溢れていた。グランドオープン初日に、もうだめだと思った矢先に出てきてくれたMさん、それを見た私の表情も、今日のこの彼らの表情とおなじだったに違いない。

ばたついたホールが落ちていたところ、店長にMさんの欠勤について聞いてみた。するとその返事は意外すぎる内容だった。

「欠勤どころか、寮にもおらんよ。こういうやつはもう帰ってこないよ、多分」

「休みと勘違いしてるだけとか？」
「連絡もつかんし、寮に荷物すらないからな、帰ってこんよ」

「そうですか…」

皆に慕われ、いつも明るく従業員の見た方だったMさん、何かあったのだろうか？とても心配だったし、とても寂しかった。でも、それ以上にこの無責任さが腹立たしくもあった。いつも自分を犠牲にし、人の分まで働き、そして人の分まで怒られる。遅刻や欠勤などなく、責任感の強い人だった。そんな人だから余計にこの行動が腹立たしかったのだ。

「だから、これから頑張るね」

店長のこの能天気な発言が、複雑だった私の感情を明確なものに変えてくれた。それがどういふ感情なのか、きつと皆さんも理解してもらえはるはずだ。

昇進

Mさんがいなくなつて1ヶ月、季節は秋に移り変わろうとしていたが、まだその暑さに衰えは感じられなかった。また同様に店にも衰えは見えず、連日長蛇の列ができていた。

従業員もそれなりに増えてはいたが、役職者は班長の私と副主任のTさんだけだった。私たち2人がそれぞれ早番と遅番に別れ、ホールを回していた。

ある遅番だった日、いつもどおりに閉店作業を終えたあと、店長に呼び止められた。

「おいA、お前は明日から副主任だ」

「え…、ではTさんは主任ですか？」

「いや、あいつは副主任のままで。おまえに追いつかれたTはどう思うだろう？頑張るって主任を目指すだろうか？」

「私には分かりませんが、何らかの意識はすると思います」

私よりかなり年配だったTさんは、この店に来る前にもホール店員で経験もあり、私よりも昇進が早かった。それでも、いろいろな知識への貪欲さは私のほうがはるかに勝っており、Tさんはどちらかといえば、あまり新しいことを研究したりせず、既存の知識だけを頼りにしている印象があった。正直なところ、台の知識、補給機の知識、その他もろもろのホールの知識で、私はTさんより劣っているとも一度も思ったことはなかった。だからといってお互いがどうといったことはなく、むしろ、その真面目な性格や、人柄などに私はとても親しんでいた。

次の日の早番と遅番の交代の時間、私と顔を合わせたTさんは、私へのお祝いの言葉を告げ、足早に帰っていった。店長に聞かれたあの質問、私は本当はこのよう

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

5号機世代

に答えたかった。「きつとTさんは何も変わりませんよ。何も変わらず副主任ま

できたのですから」それでも今の反応を見ると何か変わったような感じがした。

そしてそれが少し嬉しかった。

先日、久しぶりに丸一日スロットを打ちました。それも台移動せずに同じ台です。今、人気の高いエヴァンゲリオン(約束です。8500ゲーム回して、BIG26回、REG15回でした。確率上は設定5辺りといったところでしょうか？4000ゲームほど、通常時のスイカとチェリーの数をカウントし、ポナスのスイカをカウントしてみました。その確率もまあまあ良好でした。結果は6千円投資で2千枚でした。なので差玉で1700枚ということになります。機械割りの通りの出玉ですね。ついでに、大まかな、機械割りの期待出玉枚数の計算方法を紹介しておきます。まず、消化したゲーム数×3をしてさらにそれに機械割りから100%を引いた値(百分率なので、100分の1にして下さい)を掛けるだけです。例えば、エヴァの設定5ですと、機械割りが108%ですので、8000ゲーム回した時の期待出玉は8000×3×108で約26400枚ほどになります。これは差玉ですので、出玉は投資したメダル枚数を加えてください。1万円投資なら19000枚+5000枚で、24000枚となります。大まかな値なので、目安程度で参考にしてください。(実際はもう少し少ないです)

余談はさておき、話をもとに戻しましょう。この日は久しぶりに長時間打ち、現役に復帰したような感覚に襲われました。設定を見極めようと、真面目に打ち取りこぼし

のないように、毎回キツチリ目押しをし、演出を楽しむことなく、即座にポナスを揃える。そしてこのエヴァという台は、初期の4号機に似ているところが多数ありました。特別大きな付加価値はなく、始終単調なゲーム性、取りこぼしの発生するリール配列。爆裂ストック&AT機から180度ひっくり返ったその5号機は、それに慣れていたスワッター達にはとても退屈で、だらだらしたものと感じたと思います。最初は私もそう思いました。しかしこの日、1日粘って、やっと1箱力子盛りにできたとき、「そういえば、昔はこんなやつたぞ」とその忘れ去られていた記憶が鮮明によみがえりました。さらに、そのカウントしていたスイカの数を思い出しました。4000ゲームで70回近く出たそのスイカ。8500回したから150回は出ているでしょう。そうすると、12枚小役だから、150回だと1800枚になるのか。ん？もし、全て取りこぼしていたら、今日の出玉はほとんどナシ!?2回に1回取りこぼしたとしても、9000枚。金額にして1万8000円！これは十分な技術介入要素じゃない？

設定	弱スイカ (12枚)	強スイカ (12枚)	チェリー (1枚)
1	1/70.62		1/73.64
2	1/68.27		1/70.17
3	1/64.63	1/1310.72	1/67.01
4	1/61.48		1/63.94
5	1/58.51		1/61.36
6	1/55.92		1/58.78

通常時小役確率 (スイカチェリー)

BIG中小役確率 (スイカチェリー)

設定	弱スイカ (15枚)	強スイカ (15枚)	チェリー (1枚)
1	1/16.38	1/1310.72	1/65.54
2	1/15.60	1/1092.27	1/59.58
3	1/14.89	1/936.23	1/54.61
4	1/14.25	1/819.2	1/50.41
5	1/13.65	1/728.18	1/46.81
6	1/10.92	1/655.36	1/43.69

◆ポナス消化中の枚数調整
ポナス中のスイカは15枚なのでナビが出たら中右リールで目押し。チェリーと1枚役「ベル」青7「青7」はすべてパズルで獲得枚数のダウンを防ぐ。

*REGは12枚で終了するもので、必ず4回回す。